（別紙１）本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２６年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	飯島　祥二	所　属	観光科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成26年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成26年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	概要：観光学の複合性に対応するため、基礎的研究遂行能力と実践的問題解決能力の涵養をはかる。 基礎学力の育成と実践可能な理論的枠組みの涵養のため、以下の実習を実施する。演習における教育内容の充実とフィールドでの調査研究の実施、（1）まちづくりの実践的調査研究、（2）観光資源の調査研究、（3）夏季休業中：観光資源の調査方法の実習（予定）などを実施する。これらの教育的調査研究は卒論作成に関わり、教育的効果が期待される。 研究室における具体的なインストラクションを行うために、研究室の機器等の整備を行い、円滑に指導を行う。	0.40	基礎的研究遂行能力と実践的問題解決能力の涵養をはかるため、以下の取り組みを行った。 （1）まちづくりの実践的調査研究（那覇市内）（2）観光資源の調査研究（那覇市内）（3）夏季休業中：観光資源の調査方法の実習（那覇市内）（4）観光資源の管理手法に実地調査（京都市内2月実施予定）などを実施した。これらの教育的調査研究は卒論作成に関わり、教育的効果が期待される。また、教員と院生の研究に学部学生が同行し、実地で調査法を習得する機会を設定し、実際に調査手法等を会得した。
研究	0.40	概要：観光学と環境学（環境工学、環境評価、環境心理学）分野の学際的研究を体系的に検討する。 研究計画（1）倉敷・飛騨高山の街路景観評価研究（首都大・東工大との共同研究）、（2）沖縄における都市型観光の観光資源管理に関わる調査研究（首都大・東工大との共同研究）(3)沖縄における光環境の地域特性の調査研究の実施　（4）その他の研究 研究発表等　（1）審査（査読）付論文2編の発表（予定）　（2）国際学会での発表論文の公表（予定）　（3）その他	0.45	（1）倉敷・飛騨高山の街路景観評価研究 　査読論文（2）［直井岳人、十代田朗、飯島祥二[2014年）「「歴史的町並みにおける訪問者のまなざしの差異と街並みの印象との関係」 、観光研究　Vol.26　No.1 pp.47-60（査読済み）等により成果をだしている。 （2）沖縄における都市型観光の観光資源管理に関わる調査研究 査読論文（3）［飯島祥二、直井岳人（2015年）「観光目的地評価に関する環境工学研究の新しい可能性ー環境工学における「環境要素間関連性」から観光学へのアプローチーー、観光研究、（査読済み、掲載決定）］等により成果を発表している。 （3）沖縄における光環境の地域特性の調査研究の実施 査読論文(1)［飯島祥二、直井岳人、十代田朗、(2014年)「那覇市国際通りの色彩環境ー各都市との比較色彩環境研究を通してー」、総合観光学会誌（査読済み、掲載決定）］、その他の（2）等により成果を発表。 （4）その他の査読研究 （1）飯島祥二、直井岳人、十代田朗、(2014年)「那覇市国際通りの色彩環境ー各都市との比較色彩環境研究を通してー」、総合観光学会誌（査読済み、掲載決定） （2）稲垣卓造、飯島祥二(2014年)「距離と照度比が測色に及ぼす影響」、建築学会梗概集、pp.489-492（選抜梗概）（査読済み） （3）飯島祥二、稲垣卓三、直井岳人(2014年)「街路景観色彩の経時変化に関する基礎的調査研究ー1994年および2014年における島根県松江市と鳥取県倉吉市の事例を通してー」、建築学会梗概集,pp.509-512（選抜梗概）（査読済み） （4）Masahiro Ogawa, Taketo Naoi, & Shoji Iijima (2014). How the presence of people in photographs affects potential visito rs' evaluations. Proceedings of 7th World Conference for Graduate Research in Tourism, Hospitality and Leisure, pp.482-288, 03-07 .(in press) （国際学会での発表論文の発表） （1）Masahiro Ogawa, Taketo Naoi, & Shoji Iijima (2014). How the presence of people in photographs affects potential visito rs' evaluations. Proceedings of 7th World Conference for Graduate Research in Tourism, Hospitality and Leisure, June 2014, I stanbul, Turkey （査読なし） （1）飯島祥二（2014年）「沖縄県那覇市の色彩環境ー東北地方12都市の色彩環境との比較ー」、日本建築学会東北支部研究報告書 （2）上原明、飯島祥二、直井岳人、伊良皆啓（2014）「那覇市国際通り周辺における観光目的地の魅力特性に関する研究ー観光目的地内の空間特性が観光活動に及ぼす影響ー」、第29回観光研究学会全国大会学術論文集　pp。253ー256（審査なし） （3）上原明、飯島祥二、直井岳人、小川真弘、伊良皆啓、(2014)「那覇市国際通り周辺における観光目的地の魅力特性に関する研究ー観光者向けの空間と地元住民向け空間の魅力特性に関してー」、第26回全国大会学術論文集 pp.5-9（審査なし）
社会貢献	0.10	概要：多様な領域での社会貢献の実施を目指す。 （1）（建築学会）委員としての活動（環境工学小委員会委員、街路景観色彩のアカデミックスタンダード準備WG委員・幹事　その他）（2）観光総合学会評議員（観光総合学会）としての活動　（3）武蔵野大学環境研究所客員研究員のしての活動(4)その他の委員会の活動。	0.00	多様な領域での社会貢献を実施した。 （1）（建築学会）委員としての活動（環境工学小委員会委員、街路景観色彩のアカデミックスタンダード準備WG委員・幹事　その他、各々年4回程度の会議に参加）（2）観光総合学会評議員(観光総合学会）としての活動　（3）武蔵野大学環境研究所客員研究員のしての活動(4)その他の委員会の活動。
管理運営	0.10	全学委員会での活動（総合情報処理センター運営委員、総合情報処理センター専門委員会、男女共同参画室室員 、風樹館運営委員会）、学部委員会（将来計画委員会委員、就職指導委員会）　その他の管理運営）および学科内の管理運営	0.10	全学委員会での活動（総合情報処理センター運営委員、総合情報処理センター専門委員会、男女共同参画室室員 、風樹館運営委員会）、学部委員会（将来計画委員会委員、就職指導委員会）　その他の管理運営）および学科内の管理運営等を行った。
進路指導	0.05	演習における巡検や調査において、行政や企業(観光関連）で活躍されている人材との交流の実施。また、次のような活動の実施。（1）演習における、具体的な進路指導のインストラクション　（2）学外での短期実習　（3）サービス業の視察等	0.05	演習における巡検や調査において、進路指導的教育を実施した。企業経営者との交流をはじめ、様々な活動を行った。また、視察旅行で、観光産業の現場に接する機会を持った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　□　学外公表に同意しない。　□　学内公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２６年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	下地芳郎	所　属	観光産業科学部　観光科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成26年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成26年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	観光政策論、国際観光論、地域開発論等を通して具体的事例や外部講師等との議論を踏まえて「実践的」な教育を行う。授業の成果の一部は自治体や企業等の活動に反映させる	0.30	担当科目の実施に当たって、最新のデータに基づく実践的な教育を心掛けた。特に、県内のみならず国内外の専門家を積極的に招聘し観光を取り巻く状況について学べる環境を整備した。授業の成果は沖縄県や沖縄観光コンベンションビューロー、市町村観光政策に反映させた
研究	0.20	沖縄ツーリズム学会を設立し、県内外の産学官連携による沖縄観光振興策の研究を行うとともに、研究成果は学会や講演会等で発表する（最低2回）	0.05	沖縄県経済同友会の観光委員会に参加し経済界との交流に努めたが学会設置までには至らなかった。沖縄観光振興策については、カジノを含む統合リゾート導入を取り巻く状況やビジネス観光促進策について学会や講演会等で発表を行った（5回）
社会貢献	0.40	琉球大学が進める「地（知）の拠点整備事業」の本部長として地域における「学び直し」の活性化を図る	0.45	全学的にサテライトキャンパスの活用に取り組んだほか、観光科学科における市町村観光支援において、自治体対象セミナー及びシンポジウムを開催した
管理運営	0.05	行政機関や産業界等との連携を通して学科の円滑な運営に寄与する	0.05	沖縄県、県内市町村及び沖縄総合事務局の事業において各種委員会や審議会への参加等により観光科学科の取り組みの重要性を訴えた
進路指導	0.10	2年次指導教員として、後期から始まるプレゼミに向けての指導を行うとともに、観光研究サークル「琉球ツーリズムクラブ」の顧問として更なる活性化を支援する	0.15	4年次の就職及び留学支援に力を入れたほか、3年次と2年次ゼミ生に対して観光産業や自治体関係者との交流を深めた。また、観光研究サークル「琉球ツーリズムクラブ」の活動を支援した
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

□　学外公表に同意しない。　　□　学内公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２６年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	松本　晶子	所　属	観光産業科学部　観光科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成26年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成26年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	・観光科学科の目標に照らした教育目標の設定 ・考える力を身につけた学生を育成するための授業の工夫 ・授業評価等の指摘を取り入れた授業改善 ・研究倫理を身につけた学生の育成	0.30	・観光科学科の目標に照らした教育目標の設定を心掛けた ・考える力を身につけた学生の育成のため、グループディスカッションを取入れた ・授業ごとに、シラバスの提示をおこなった ・研究倫理を授業に取り入れた
研究	0.30	・科研費取得代表者としての研究運営 ・科研費、民間助成金等の外部研究費取得の取り組み ・学術雑誌・学会における成果発表 ・学会誌等編集員としての活動	0.30	・科研費取得代表者として研究運営をおこなった ・科研費、民間助成金等に申請をおこなった ・学術雑誌3本・学会３本の発表をおこなった ・３つの学会誌において編集員として活動をおこなった
社会貢献	0.05	・学外の委員会等への参画 ・教員免許更新講習および公開授業の開講 ・国際貢献への取組 ・国外他機関における教育支援	0.05	・教員免許更新講習を実施した ・北海道大学、関西学院大学との単位互換連携について取り組んだ ・ケニア国立博物館との連携について取り組んだ ・ケニア国立博物館において、ケニア人学生への専門教育を実施した
管理運営	0.30	・研究科長、副学部長としての業務の遂行 ・所属部局および学科における委員会での業務の遂行	0.30	・研究科長、副学部長としての業務を遂行した ・担当委員会での業務を遂行した
進路指導	0.05	・進学・就職指導のためのアドバイス	0.05	・進学・就職指導のためのアドバイスを行った結果、8名の4年生全員の就職が内定した
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	□　学外公表に同意しない。　　□　学内公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２６年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	平野典男	所　属	観光産業科学部　観光科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成26年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成26年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	1.全て新規担当科目となるため、学生にわかりやすいパワーポイント資料の作成等、事前準備を入念に行う。 2.企業での実体験や最新の観光業界のトピックスなども取り上げ、受講生の関心を高めるよう工夫する。 3.インターンシップにおいては新規研修先の開拓や運営方法の整備に努める。	0.50	1. 各講義において毎回パワーポイント資料を新規作成した。前任の講義資料も参考に学生に見やすい資料とするよう心がけた。 2. 最新の観光業界の動向を伝える映像資料を使い学生の理解度、興味関心を高めるよう工夫した。また、プレゼミではゲストスピーカーによる講義やリゾートホテルでの宿泊セミナーを通じ、最新の航空・宿泊業界の動向を学ばせた。 3. インターンシップⅠの研修先33ヶ所中新規開拓先は13ヶ所であった。過去の覚書の保管が不十分であったことから、改めて覚書を作成締結し、覚書リスト及び原本ファイルを整備した。 インターンシップⅡでは新たな試みとして沖縄観光コンベンションビューローの沖縄フィルムオフィスによる映画ロケの研修なども取り入れた。
研究	0.20	1. 契約理論の観点から、ホテルの運営受委託契約におけるエイジェンシー問題についての研究を行なう。 2. 航空産業におけるアライアンス問題、日本におけるLCCの展開等について研究を進める。	0.10	1. 観光科学第6号（2014.10）に研究論文「ホテルマネジメント契約のモデル分析」（単著）を掲載。 2. 2014年11月東北亜観光学会誌に共著論文「沖縄観光におけるLCC路線参入効果について」を投稿。査読の結果、修正の上再査読が必要となったため、現在改稿中。
社会貢献	0.20	1.沖縄観光コンベンションビューローの企画総務委員として専門的立場から沖縄観光振興に関する提言を行う。 2.沖縄県内のホテルとの産学連携によるリゾートアクティビティプランの企画開発を行う。	0.20	1. 沖縄観光コンベンションビューローの企画総務委員として事業評価のあり方等について提言を行った。また、9月に沖縄本島地域タクシー準特定地域協議会会長、10月に沖縄県観光産業経営強化事業アドバイザー派遣先選定委員会委員長に就任し、社会活動に取り組んでいる。 2. プレゼミでゼミ生にJALプライベートオクマでのアクティビティプラン案を作成させ総支配人以下ホテル幹部にプレゼンテーションを行ない、手作り工房でのアイデアが採用された。
管理運営	0.20	1.危機管理対策委員会の委員としてリスク管理の強化に努める。 2.「かりゆしの沖縄観光人材育成基金」の企画・運営に参画。	0.10	1. 琉球大学防火・防災管理規則（案）について検討を行った。 2. ハワイ研修で学生の引率及びフィールドワーク・報告会の助言・指導を行った。
進路指導	0.10	1.後期からのプレゼミを通じて、ゼミ生に就活に関わる指導や情報提供、企業訪問等による就業意識の向上に努める。 2. ゼミ内外を問わず学生からの就活相談があった場合は積極的に助言を行う。	0.10	1. ゼミ生に名刺交換等のマナーの指導、ホテル宿泊セミナー等の実施により観光業界関係者との懇談の機会を設けた。 2. インターンシップを通じて、実習先の選択等の相談を適宜実施した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

□　学外公表に同意しない。　　□　学内公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２６年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	荒川　雅志	所　属	観光産業科学部　観光科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成26年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成26年度　年度末自己点検結果
教育	0.15	・担当専門科目、オムニバス科目、ゼミ演習科目の円滑な実施 ・研究知見を取り入れた新規教材開発 ・公開授業の実施による地域、社会に開かれた教育の提供	0.15	学科特色科目「ヘルスツーリズム論」では目標である4以上の評価95%以上を達成した。「スパマネジメント論」は実務家を含むオムニバス形式で構成し、国立大学法人初のスパ実践的講義を昨年に引き続き公開授業として実施し、県内県外メディアに取り上げられるなど一定の評価を得た。新規に「旅行ビジネス論」を旅行会社との共同により実施した。
研究	0.15	・(1)基礎研究：「ヘルスツーリズムのエビデンス基盤構築」（文科省科研費基盤C採択） ・(2)特化型研究：「海洋療法のアジア太平洋島嶼の研究拠点形成」（産官学共同研究） ・(3)亜熱帯島嶼科学：「地域資源を活かした健康保養プログラム研究開発」（産官学共同） ・新規の外部資金獲得 具体数値目標として国際誌1件、国内誌1件、学会発表1件以上を目指す。	0.15	(研究論文) 〇荒川雅志(2014). 長寿と睡眠. 睡眠医療. Vol.8, No.3: 394-397 〇山城美紀, 荒川雅志(2014). 行動変容型旅行を組み込んだ特定保健指導プログラムの事例研究. 観光科学. 6:13-25 2014(査読あり) 〇Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, Sasaki S, Arakawa M. Dietary vitamin D intake and prevalence of depressive symptoms during pregnancy in Japan, Nutrition , 31(1):160-165 2015 〇Miyake Y, Tanaka K, Arakawa M. Association between 17q12-21 variants and asthma in Japanese women: rs11650680 polymorphism as potential genetic marker for asthma, DNA Cell Biol , 33(8):531-536 2014 〇Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, Sasaki S, Arakawa M. Maternal consumption of dairy products, calcium, and vitamin D during pregnancy and infantile allergic disorders, Ann Allergy Asthma Immunol , 113(1):82-87 2014 〇Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, Sasaki S, Arakawa M. Intake of dairy products and calcium and prevalence of depressive symptoms during pregnancy in Japan: a cross-sectional study, BJOG 2014 〇Tanaka K, Miyake Y, Hanioka T, Arakawa M. Relationship between IL1 gene polymorphisms and periodontal disease in Japanese women, DNA Cell Biol. , 33(4):227-233 2014 (学会発表・研究発表) 〇Kise S, Arakawa M(2014)Participants' satisfaction determinants for a physically challenged convention host city, The 5th Annual Conference of the International Association for Asia Pacific Studies. Incheon, Republic of Korea. 〇加藤洋一, 荒川雅志 (2014)スクーバ・ダイビングの精神心理的効果, 日本レジャー・レクリエーション学会第44回学会大会, 東京 〇羅依, 荒川雅志. (2014)沖縄観光における飲食サービスの満足度～中華圏観光者を対象に～, 日本レジャー・レクリエーション学会第44回学会大会, 東京 〇荒川雅志(2015)水中可視光通信技術を活用した水中健康癒しプログラム開発, 2014年ノーベル物理学賞受賞者天野浩先生特別講演会・琉球大学ドリームチーム研究会, 沖縄 国際誌1件、国内誌1件、学会発表1件以上を目指す具体的数値目標に対して、国際誌5件、国内誌2件、学会発表3件、研究発表1件と、目標以上の成果をあげることができた。
社会貢献	0.15	・県内外観光関連事業委員への参画 ・産官学共同研究による社会連携	0.15	(講演等) 〇荒川雅志(2014)琉球大学スパマネジメント論公開講座＆ガイダンス, スパ＆ウェルネスジャパン2014, 東京 〇荒川雅志(2014)水中可視光通信技術を活用した水中瞑想プログラムの実演, 沖縄県工業連合会主催第38回沖縄県産業まつり, 沖縄 〇荒川雅志(2014)沖縄におけるヘルスケアサービスの可能性ー観光と健康の融合サービスの展開ー地域ヘルスケアビジネス推進フォーラム in 沖縄, 内閣府沖縄総合事務局、万国医療津梁協議会主催 〇荒川雅志(2015)健康をテーマとした観光ニーズと新たなメニューの提案, バリアフリー旅行セミナー, 内閣府沖縄総合事務局主催, 沖縄 〇荒川雅志(2015)美と健康を求める旅～スパとヘルスツーリズムの関係とその将来性～,ヘルスツーリズム, 第7回 ヘルスツーリズム大賞奨励賞表彰式, NPO日本ヘルスツーリズム振興機構主催, 東京 (外部資金獲得) 〇文部科学省科研費基盤研究(C)(2014 - 2016)ヘルスツーリズムのエビデンス基盤構築 ,研究代表者 〇文部科学省科研費基盤研究(B)(2014 - 2016)メンタルヘルスツーリズムの展開 ,分担研究者 〇マリンコムズ琉球「水中癒し健康観光プログラム研究開発」共同研究 〇ランドブレイン(株)「食文化の継承・発展活動の推進に関する研究」受託研究 〇JTBコーポレートセールス(株)「宿泊型新保健指導プログラム研究開発」受託研究 〇一般社団法人プロモーションうるま「着地型体験型観光商品開発、流通促進に関する調査研究」受託研究 〇金武町観光協会「金武町観光資源実態調査におけるヒアリング調査設計」受託研究 〇医療法人社団いばらき会「コミュニティヘルス・ツーリズム基金」寄附金受入 各種委員等 〇農林水産省フードチェーン食育モデル事業「ごちそう様の精神を育む食育活動事業」検討委員会委員 〇平成26年度OKINAWA型産業応援ファンド事業 地域資源活用支援事業「県産ヤマン（山芋）を活用した和洋菓子の開発」委員会委員 地域社会へ学の立場からの参画、産官学共同研究による社会貢献を精力的に果たした。
管理運営	0.40	・学科長、副学部長として運営活動に従事 ・全学AOオフィス委員、企画広報部門長に就任し全学的活動に従事 ・学士教育プログラムURGCC委員に従事 ・施設管理安全衛生委員に従事	0.40	学科長として効率的な学科運営に努めた。新たな試みとして昨年度から導入した①学科会議の週1回から月2回開催への効率化、②全学・学部委員および学科内役割分掌等の教員用務の負担公平化に向けて役割平準化表の更新をおこない、教員間の負担公平策を実現した。担当する各種委員会へは定例に出席し円滑な学部学科運営に寄与した。
進路指導	0.15	・4年次指導教員として就職活動に対する支援 ・学科長として全年次指導教員と連携した学生の履修状況、大学生活の支援	0.15	4年次指導教員として進路調査のとりまとめを学生一人一人にコンタクトをとり個別に行った。内定状況の確認と未定者の指導助言により、高い就職率（2月提出時点で9割台）を維持した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　　☐ **学外公表に同意しない。**　☐ **学内公表に同意しない。**

（別紙１）本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２６年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）					
名　前	大島　順子	所　属	観光産業科学部　観光科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成26年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成26年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	①学生との効果的な授業の連絡（予習・復習の呼びかけ）体制強化及び修学のモチベーションを高めることを目的に、担当する科目においてメーリングリストの開設およびe-learningを活用する。 ②大学教育センターのFD事業の一環として今年度も授業におけるポートフォリオの試行に取り組む。 ③研究及び出張等で得られた知見や最新の情報を授業に反映させる。 ④JICA沖縄国際センターの研修員を授業に招き、学生とのコラボレーションでの授業を準備から実施に至る協働学習に位置づけ、広く学外の知的資源を活用した教育環境を構築する。 ⑤現場から学ぶことを重視し、沖縄のフィールド（特に、やんばる地域）を活かしたゼミ活動を他学部との連携及び地域住民の支援を受けて取り組む。	0.30	①目標設定の通り、e-learning(WebClass)の活用を3科目において導入し、学生に浸透させることができた。予習（Study Guideをダウンロードし、事前学習に取り組む）を行わないと授業に積極的な参画ができない状況をつくり上げ、閲覧回数を向上させることができた。発信が重複することを避けるためメーリングリストは開設せず、e-leaningでのやりとりを徹底した。e-learningについて効果的な活用方法を学び今後も授業に活かしていきたい。 ②「エコツーリズム入門」と「環境教育論」においてポートフォリオを取り入れることができた。学生へのアンケート結果をもとに現在論文にまとめている。ホスピタリティ教育学会誌に投稿予定。 ④前期「エコツーリズム入門」においてJICA研修員を授業に招き、授業全体の活性化と学生の修学意識の向上を図ることができた。 ⑤ゼミ活動を農学部との連携及び地域住民の支援を受けて合計8日間取り組むことができた。
研究	0.30	①特化型研究「特色ある研究」に取組み、文部科学省の科学研究費助成事業「やんばるの自然資源の保全と適正利用のための地域住民の理解を作り出す仕組みの提案」（基盤研究C）の研究代表者として第一年度の研究を遂行する。 ②林野庁沖縄森林管理署の外部資金の獲得を目指し、「平成26年度希少野生生物保護管理事業（沖縄島北部）」担当者（契約主体は、琉球大学）として、国有林野の利活用における調査研究を行う。 ③農学部との共同研究として、「やんばる自然資源調査」の学際的な調査及び研究活動を継続して履行する。 ④上記①～③の成果を関連学会等の査読付き学術誌へ投稿する。（国際1件、国内1件） ⑤8月2～3日に開催される日本環境教育学会（法政大学）にて、口頭発表を行う。 ⑥11月11日に開催される第5回Wildlife Tourism Australia workshop（オーストラリアNSW州）にて、口頭発表を行う。 ⑦国内の専門分野の学会誌の査読委員を担当する。	0.30	把握し、研究内容に反映させることに繋がる地域関係者との勉強会を4月から毎月一回開催している。 ②林野庁沖縄森林管理署の外部資金を獲得し、希少野生動物種の生息調査に関する研究を行い、国有林野の利活用における問題点及び提案を行うことができた。 ③「やんばる自然資源調査」の調査結果の一部を「沖縄島やんばる地域の天然林における林冠木の形状について」九州森林学会（佐賀大学・10月25日）にて口頭発表（共著）した。 ④「沖縄島やんばる地域における亜熱帯性天然林の林分構造　－60年生二次林と非皆伐成熟林の比較－」共著（森林計画学会誌第48巻1号：査読付き学術誌）印刷中。 ⑤日本環境教育学会第25回大会（法政大学・8月3日）において、平成23～25年度科研費基盤研究(C)の成果報告として「沖縄やんばるのｳｲﾙﾄﾞﾗｲﾌ・ﾂｰﾘｽﾞﾑの構築に向けた取り組み－ﾊﾞｰﾄﾞｳｫｯﾁﾝｸﾞにおける観察指針づくり－」を口頭発表（単）した。大会において自主課題研究「観光の教育力と環境教育」の研究会をコーディネートした。また、英語発表の部の座長を務めた。その他、沖縄地理学会（琉球大学・7月26日）において基調講演『環境教育と広げつなげるESD －その理解と活かし方・取り組み方』の依頼を受け担当した。 ⑥11月11日第5回Wildlife Tourism Australia workshop（オーストラリアNSW州）及び11月12日Ecotourism Australiaの勉強会に参加した。今年度は口頭発表形式のセッションがなかったため、ワークショップ等への参加となった。 ⑦今年度、日本環境教育学会が発行する学会誌の論文査読を3件担当した。（学内の生涯学習研究センター紀要の論文査読を2件担当した。） その他：法文学部と農学部、教育学部の教員らとチームを組み申請し、採択された中期計画プロジェクト（萌芽研究）を遂行し、年度内に研究会の開催、報告書作成、加えて学会誌への投稿を予定している。 ⑧平成26年度中期計画達成プロジェクト経費（戦略的研究推進経費）で採択された萌芽研究「沖縄環境学の構築のための萌芽的研究―21世紀の惑星地球における研究諸領域の連携―」に、共同研究者（代表：浜崎盛康教授）として参画し、専門である環境教育分野を担当中。
社会貢献	0.15	①沖縄県の観光審議会及び自然環境保全審議会等、審議会委員（計4件）として、継続して参画する。 ②沖縄県の委員会委員（2件）として、継続して参画する。 　上記の委員会等には、学内の教育研究に支障無く関わることはもちろんであるが、参画することにより入手できる貴重な（学術的及び統計的）情報を教育研究に活かすよう努める。しかしながら、審議会や委員会の再任にあたっては就任の削減に努める。 ③公開授業（2科目）の提供及び公開講座「バードウォッチングで学ぶやんばる」（5月17日）及び「やんばるの森の恵み」（11月22～23日）の代表担当教員として地域の指導者と学部の教員と共同で開催する。 ④JICA研修における講義の担当及びカリキュラム作成にあたっての協力を行う。 ⑤免許状更新講習3件を提供したが、特に「観光の教育力と教材開発」は新設科目として好評であった。	0.15	①沖縄県の自然環境保全審議会及び振興審議会等、審議委員（計3件）として、参画した。 ②沖縄県の委員会等の委員（2件）として参画する以外に、年度単発ではあるが、特に離島（久米島、石垣島）において自身の専門性を活かした委員会に参画し、意見や提案を反映させることができた。 ③公開授業（2科目）で6名の一般受講生、公開講座（2講座）で地域の組織（国頭村森林組合）と地域指導者と連携して約30名の受講生を受け入れ、好評のうちに終了することができた。3年間同様なテーマで開講した内容と成果の分析を元に生涯学習教育研究センターの紀要に投稿予定。 ④JICA研修における英語による講義を合計12時間担当し、カリキュラム作成にあたっての支援（相談、教材選び等）を行った。
管理運営	0.17	①全学エコロジカルキャンパス推進委員会の企画部会委員として、学内の環境マネジメントシステム構築に参画し、特にエコロジカル・キャンパス学生委員会の指導教員として学生活動を支援する。 ②生涯学習教育研究センター運営委員として、紀要編集委員を務める等センター運営に積極的に関わる。 ③全学対象の環境総合副専攻の担当教員の一人として科目担当及び副専攻の効率良い会議運営に携わる。 ④セクシャルハラスメント相談窓口として、当事者が相談しやすい環境づくりを図る。 ⑤副学長諮問委員会「ハラスメント規程委員会ワーキンググループ」への参画。	0.17	①全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員として、主に学生委員会の担当教員となり、学生活動（6月研修、8月環境報告書作成、12月エコプロダクツ2014出展、毎月のクリーンキャンパス大作戦等の企画・運営・引率）の支援にあたった。 ②生涯学習教育研究センター運営委員として、公開講座の担当及び紀要編集委員を務め、センター運営に積極的に関わった。 ③全学対象の環境総合副専攻及び琉球学副専攻の担当教員として科目担当及び副専攻の効率良い会議運営に携わった。 ④セクシャルハラスメント相談窓口であるが、全学的に窓口の認知度が低く、周知に力を注ぎたい。 ⑤副学長諮問委員会「ハラスメント規程委員会ワーキンググループ」へは継続して参画しているが、開催数が多く日程が合わないで欠席することもあった。
進路指導	0.08	・指導教員である4年次学生やｾﾞﾐ生に対し、進路に関する情報提供及び適切な進学指導と就職支援を行い、就職率の向上（90%以上）を目指す。	0.08	・指導教員である4年次学生やｾﾞﾐ生に対し、進路に関する情報提供及び適切な進学指導と就職支援を行った。卒業学年ゼミ3名のうち、2名が就職内定を頂き、残る1名に対して最後まで支援にあたりたい。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	□　学外公表に同意しない。	□　学内公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２６年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	片岡　英尋	所　属	観光産業科学部　観光科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成26年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成26年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	「観光学概論」の講義内容につき「基礎演習」担当教員と連携の内容の向上を図る。	0.30	「基礎演習」の旧観光学概論部分の内容を担当教員とすり合わせの上「観光学概論」の内容の向上に努めた。
研究	0.30	昨年度に最終年度を迎えていた科研での研究の延長申請が受領されたので成果に結び付ける。また新規の科研の申請を行う。	0.30	延長申請が受理された科研費の研究の成果として論文の作成をに着手した。
社会貢献	0.10	科研費の成果の社会化の一環として、島嶼地域を対象にシンポジウムを開催する。	0.10	科研費の成果の社会化の一環として、外部講師を招いてオープン形式のフォーラムを開催した。
管理運営	0.10	事務の効率化に協力する。	0.10	事務の効率化に協力した。
進路指導	0.20	最終年次のゼミ生と留学から復帰するゼミ生への対応が一面的にな	0.20	ゼミ生の就職に関して、ゼミ生自身の将来計画につき定期的に尋ねることで、それぞれがユニークな進路を決定できた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	□　学外公表に同意しない。　□　学内公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２６年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	波多野　想	所　属	観光産業科学部　観光科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成26年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成26年度末自己点検結果
教育	0.25	平成２６年度、学部においては、必修科目として「観光地理学」「観光学演習Ⅰ」「観光学演習Ⅱ」、選択科目として「文化観光資源概論」「観光景観論」「世界遺産論」を提供する。また大学院においては「観光資源マネジメント特論」「観光資源マネジメント演習」「特別研究」を担当する。 昨年度に引き続き、各科目において、Problem Based Learning（PBL、問題解決型授業）の手法を取り入れ、思考能力や問題解決能力を養うことを目標に、知識の吸収に留まらない授業を実施する。また研究室における活動をより充実させるため、週一度夜間に読書会を開催する。大学院教育においても、独自に大学院ゼミを週一度開催し、大学院生および大学院進学希望者の研究能力の向上に努める。	0.25	学部においては、必修科目として「観光地理学」「観光学プレ演習」「観光学演習Ⅰ」「観光学演習Ⅱ」を開講した。「観光地理学」においては、Problem Based Learning（PBL、問題解決型授業）の手法を取り入れ、思考能力や問題解決能力を養う授業を心がけた。「観光学演習Ⅰ」においては、南城市文化課との協働を視野にいれ、南城市西原集落において調査研究を実施した。同調査研究は南城市文化課との協力のもと、具体的な地域活動へと発展されることが予定されており、学生にとっては観光学や地域活性化に関する理論や方法論の獲得のみならず、実践を通して自身の活動を社会に還元する方法を学ぶこととなる（実践力を養うための指導を徹底した）。今年度はその基礎を構築し得た。また昨年度4年生が参加した「宜野湾市まちづくり・地域活性化プレゼンテーション大会」に関連し、宜野湾市商工会とともに普天間商店街の活性化を目標としたスキームの構築を開始した。これにより、来年度以降、ゼミ学生の実践の場をさらに拡げることができるようになった。
研究	0.25	島根県（教育庁文化財課世界遺産室）委託の研究プロジェクト（「東アジアの鉱山比較研究」）を、昨年度に引き続き受託する（受託先は大学院観光科学研究科とする）。本プロジェクト実施において、海外調査（台湾）を夏期休業中および春季休業中に行う。 研究論文については、審査付き論文１件、国際会議論文１件以上を目指す。	0.20	島根県（教育庁文化財課世界遺産室）委託の研究プロジェクト（「東アジアの鉱山比較研究」）を予定通り受託。受託後、5月（東京）、8月、10月、11月（台湾）の4度にわたり、史料収集調査と実測調査を実施。 上記受託研究の昨年度分の研究成果「石見銀山と瑞芳鉱山　―藤田組による台湾の鉱山開発―」を、石見銀山学講座「ここまでわかった石見銀山」（2014年6月7日、大田市民会館）にて発表。 平成26年度中期計画達成プロジェクト「グローバル社会における主体的島嶼社会創生をめざした総合的研究」に参加。 科研「東アジアを中心とした名勝地の保護に関する研究」（研究代表者」平澤毅（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所））に係る文化的景観講演会「東アジアの文化的景観」（9月20日、奈良文化財研究所）にて、「台湾の文化的景観」を発表。 国際沖縄研究所主催IIOS公開シンポジウム2014「島嶼型ランドスケープ・デザイン：多角的アプローチによる考察」（12月7日、琉球大学）にて、「島嶼景観のダイナミズム―景観の複合性からみた金門島の特殊性」を発表（シンポジウムの内容は、書籍として公刊予定）。 東北大学東北アジア研究センターシンポジウム2014「東アジアの世界遺産と文化資源」（2015年2月14日予定、東北大学）にて、「台湾における文化景観の遺産化」を発表予定。 論文： 「明治30年代瑞芳及金瓜石礦山之設施與空間配置的實状態」（『黄金博物館學刊』2015年1月、新北市立黄金博物館、pp.50-70、単著） 「明治30年代における藤田組による瑞芳鉱山の開発」『土木学会論文集』（単著、査読中）
社会貢献	0.20	①ゼミ活動の一環として昨年度より実施している中城における地域活性化プロジェクトに関して、安里区および伊舎堂区を対象としたGreen Mapのデザイン、印刷、発行を目指す。 ②南城市の集落における地域活性化に対して、ゼミ生とともに支援の方法を検討する。 ③昨年度に引き続き、沖縄総合事務局開発建設部景観委員会委員および事業景観アドバイザーを務める（～平成27年3月31日）	0.25	①に関しては、中城村の観光施策と合致せず、断念した。しかしGreen Mapに関しては、南城市において実施することとなった。 ②上記の通り、南城市内集落の活性化に関して、ゼミ生による調査研究が実施され、さらに今後、地域活動およびGreen Mapの作成を行うことがすでに予定されており、今年度はその計画策定を行った。 ③以下の学外委員を担当。 ・沖縄総合事務局開発建設部「景観委員会」委員および事業景観アドバイザー（～平成27年3月31日） ・那覇港管理組合の業務に係る「那覇港管理組合総合評価方式等における意見聴取のための学識経験者（平成26年5月7日～平成27年3月31日） ・「沖縄県名勝調査検討委員会」委員（平成26年6月16日～平成27年3月20日） その他、以下の社会貢献を行った。 大田市教育委員会・島根県教育委員会主催の講座「ここまでわかった石見銀山」（平成26年6月7日、大田市民会館）で、「石見銀山と瑞芳鉱山ー藤田組による台湾の鉱山開発」を題した講演を行った。 南城市主催「尚巴志のまちづくりシンポジウム」（平成26年7月13日、シュガーホール）で、パネリストを担当 山陰中央新報に「近代石見銀山から台湾・瑞芳鉱山へ―藤田組の鉱山事業」を寄稿（平成26年7月3日掲載）
管理運営	0.20	①広報委員として、学生募集パンフレットの作成を通した広報体制の改善。特に今年度は、パンフレットのリニューアルを全面的に実施する。 ②国際交流委員会委員およの国際交流専門委員会の委員として、JICAとの包括連携協定締結に向けた作業を進め、他方で台湾の大学との学科間研究協定の締結に努力する（虎尾科技大学）。 ③紀要編集委員として、編集事務の一切を担う。	0.20	①広報委員として、学生募集パンフレットを作成した。しかし当初目標であるパンフレットの全面的リニューアルには至らなかった。 ②国際交流委員会委員および国際交流専門委員会・学生交流専門委員会の委員として、JICAとの包括連携協定締結に向けた作業を進めた、具体的には、包括連携協定に構想や覚え書き等の一切を作成し、JICAとの交渉を進めた。 ③紀要編集委員として、編集事務の一切を担い、印刷担当者に引き継いだ。
進路指導	0.10	①3年次指導教員として修学や学生相談等にきめ細やかな指導を実施する。 ②ゼミ生を中心に、自己アピール能力、コミュニケーション能力および実践力の向上 ③ゼミ生を中心に、履歴書等の添削を行う。	0.10	①3年次指導教員として修学や学生相談等にきめ細やかな指導を実施した。 ②ゼミ生にはゼミ活動を通じて南城市内の集落におけるイメージマップ調査をさせ、その分析結果を、他の研究室の学生など前で発表してもらうなど、積極的に他人とコミュニケーションをとり、人前でのプレゼンテーションを通して自己アピール能力の向上に努めた。 ③進路指導（就職および大学院進学）において、将来の方向性の相談とともに、エントリーシートや研究計画書の書き方に関して指導を実施した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　　☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内公表に同意しない。